

新学習指導要領とジオパーク —公開シンポジウムの趣旨—

New National Curriculum Standards and Geoparks: Important points for the public symposium

河本大地* (奈良教育大)・有馬貴之 (帝京大)・柚洞一央 (徳山大)
Daichi KOHMOTO* (Nara Univ. of Education), Takayuki ARIMA (Teikyo Univ.), and Kazuhiro YUHORA (Tokuyama Univ.)

キーワード：次期学習指導要領，地理教育，ESD（持続可能な開発のための教育），ジオパーク
Keywords: Revised national curriculum standards, Geography education, Education for sustainable development, Geopark

I. 背景と目的

2008・9年に公示された現行の学習指導要領には、持続可能な社会の構築の観点から、ESD関連記述として各所に盛り込まれている。2017年3月に公示された小・中学校の新しい学習指導要領ではこれが強化され、「持続可能な社会づくり」、「持続可能な社会の創り手」等の表現で、前文・総則から地理を含む各教科・分野に至るまでこれらが盛り込まれている。2018年3月に公示予定の高等学校についても、「地理総合」等において重視される見込みである。

持続可能な開発はジオパークでも強調される。「ユネスコ世界ジオパークは、保護と教育と持続可能な開発というホリスティックな概念で管理された、国際的にみて地質学的に重要なサイトや景観のある、ひとかたまりの地理的範囲」であり（ユネスコのウェブサイトを河本訳）、ユネスコの事業ではない日本ジオパークについても、ジオパーク学習で期待されているものがESDと一致する（高木・山本2015）。とはいえ、各地のジオパークで蓄積されている知見や教材は学校教育において十分活かされているとはいえない。多忙化している学校教育関係者がジオパークを積極的に活かせるような態勢を整える必要がある。

そこで本シンポジウムでは、これからの学校教育におけるジオパークの可能性について、地理教育とジオパークの関係者として具体的に議論したい。

II. 方法

まず、ESDとジオパークに関する筆者らの考え方を示す（図1）。そのうえで、ESDと次期学習指導要領との関係やそれをふまえたジオパークへの期待について、及川幸彦氏に整理していただく。氏は、東日本大震災を気仙沼市立小学校教員として経験したESD実践・研究者であり、日本ユネスコ国内委員やESD円卓会議長を務めている。続いて、これからの地理・社会科教育におけるジオパークの可能性について、志村喬氏に整理・考察していただく。氏は、地理教育・社会科教育の研究者であり、海外の地理教育事情にも詳しく、日本学術会議では学校地理教育小委員会委員を務めている。

次に、ジオパークと学校教育関係者とのマッチングを図るべく、休憩を兼ねて、会場内に各地のジオパークの小ブースを設置する。本稿執筆時点では、浅間山北麓、伊豆大島、糸魚川、栗駒山麓、島原半島、下北、下仁田、白滝、銚子、南紀熊野、箱根、三笠、三島村・喜界カルデラ、Mine秋吉台、室戸、ゆざわの各ジオパークが出展予定である。参加者はこれらを自由にまわることができるので、積極的に各地のジオパークに触れてほしい。

続いて、北海道の白滝と三笠、秋田県のゆざわ、宮城県の栗駒山麓の各ジオパークの専門員から、学校教育関係の取り組みについて報告していただく。それぞれの抱えている課題や可能性も抽出したい。その後、再度休憩およびブース設置の時間を設け、最後に全体での討議をおこなう。

なお、ESDに関心のある方に地理学・地理教育やジオパークへの興味をもってもらふことと、各地のジオパーク関係者への本シンポジウムの周知を目的に、日本ESD学会および日本ジオパークネットワークの後援を受けている。本シンポジウムの場を、学校教育関係者とジオパークとをつなぎ、持続可能な社会をつくる一助としたい。

文献

- 河本大地 2016. ESD（持続可能な開発のための教育）とジオパークの教育. 地学雑誌, 125: 893-909.
高木秀雄・山本隆太 2015. 学校教育調査の結果. <http://www.geopark.jp/activity/research/p20151002.html>
日本ジオパークネットワーク. (最終閲覧日: 2018年1月14日)

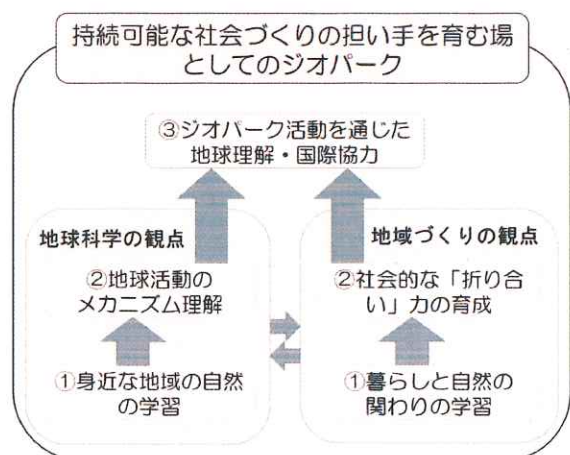


図1 持続可能な社会づくりの担い手を育む場としてのジオパークにおける教育の全体像. 河本 (2016) の図を一部更新.

2018年1月19日

公開シンポジウム「新学習指導要領とジオパーク」

日本地理学会ジオパーク対応委員会

オーガナイザー： 河本大地（奈良教育大）・有馬貴之（帝京大）・ 柚洞一央（徳山大）

後援： 日本ESD学会、日本ジオパークネットワーク

開始時刻 13:00

13:00-13:05

河本大地（奈良教育大）・有馬貴之（帝京大）・ 柚洞一央（徳山大）：新学習指導要領とジオパーク公開シンポジウムの趣旨—

座長：河本大地（奈良教育大）

13:05-13:45

及川幸彦（東京大）：新学習指導要領の基盤としてのESDとジオパークの活用

13:45-14:10

志村 喬（上越教育大）：これからの地理・社会科教育におけるジオパークの可能性

14:10-14:35

休憩、および各ジオパークのブース開設①

（出展ジオパーク・・・浅間山北麓，伊豆大島，糸魚川，栗駒山麓，島原半島，下北，下仁田，白滝，銚子，南紀熊野，箱根，三笠，三島村・喜界カルデラ，Mine 秋吉台，室戸，ゆざわなど）

座長：柚洞一央（徳山大）

14:35-15:47

杉山俊明（遠軽町郷土館）：白滝ジオパークと北海道遠軽高等学校の教育

15:47-15:59

上野莉紗（三笠ジオパーク）：三笠ジオパークと学校教育

15:59-15:11

中三川洸太（湯沢市ジオパーク推進協議会）：ゆざわジオパークで育む郷土への関心—学校教育を補完するジオパーク学習—

15:11-15:23

中川理絵・小林美月（栗原市ジオパーク推進室）：学校教育とジオパークの協働活動について—
栗駒山麓ジオパーク学習の実践から—

15:23-15:50

休憩、および各ジオパークのブース開設②

15:50-16:30

【総合討論】

座長：有馬貴之（帝京大）

終了時刻 16:30